

※公募の詳細については、公募機関(AMED)のwebサイトで必ず確認してください。(H28.5.27現在)				
【H28年度日本医療研究開発機構(AMED)研究費】(Medical Artsの創成に関する研究)				
【公募締め切り・事業紹介リンク先】				
Medical Artsの創成に関する研究			<b>研究推進課学術調整係への提出期限</b> <b>平成28年6月28日(火)</b> (AMEDの期限は7月5日(火)正午 厳守) ○提出方法:e-Rad(機関承認要)  <a href="http://www.amed.go.jp/koubo/010520160526-03.html">http://www.amed.go.jp/koubo/010520160526-03.html</a>	
公募課題				
	研究費(年間) (間接経費を含む)	研究期間	採択件数	公募する研究概要
<b>分野1 医療技術開発</b>				
<b>1 外科診療並びに内視鏡や放射線機器等を用いた診療等における医療手技のエビデンスの確立</b>	50,000千円 ※2年目以降は10,000千円程度	最長3年	0~3課題程度	<b>【目標】</b> 本公募研究課題では、従来から高い専門技術が求められる外科診療並びに、内視鏡や放射線機器等を用いた診療等における医療手技の開発及び医療の質の向上や効率化に資する新たな医療手技や支援プログラム等の医療技術の開発を目指す。最終的には、臨床現場への普及を目指し、研究開始から3年度以内に、診療ガイドライン等の作成・更新、臨床試験の実施により医療技術に関するエビデンスを構築することを目標とする。また、情報通信技術(ICT)等を医療技術の情報化、電子化に活用することにより、より効率的で汎用性のある医療技術の開発支援、エビデンスの創出に関する研究も対象に含む。
<b>2 医療の質の向上や効率化に資する、様々な職種が行う医療手技や支援プログラムのエビデンスの創設</b>	3,000~15,000千円程度	最長3年	5~10課題程度	<b>【求められる成果】</b> ・研究課題1 エビデンスに基づく新規ガイドラインあるいは改訂版ガイドライン作成に資する治療/介入方針(アセスメント・モニタリングのための評価指標及びその測定方法、病状のレベル別の介入方法などを含むこと) ・研究課題2 上記方針、既存の方針それぞれのエビデンスレベル(評価指標等の信頼性・妥当性、介入の効果等)を示す資料(研究班が開発した医療手技等に係る原著論文、研究班で収集した論文)
<b>分野2 がん治療法開発</b>				
<b>1 エビデンスに基づく希少がんの(標準的)治療法の開発支援</b> 1-1 臨床試験のプロトコルの作成 1-2 全国症例登録システムの構築	3,000~5,000千円 ※2年目以降は20,000千円程度	最長3年	3~6課題程度	<b>【目標】</b> 本公募研究課題では、エビデンスに基づく希少がんの(標準的)治療法(外科等の医療技術の開発を考慮に入れた集学的治療法)の開発を目標とする。特に1については、眼とその周辺のがん(眼、鼻、耳等)及び頭頸部がん(舌、上顎、下顎、声帯付近等)における感覚・運動機能温存を目的に、視覚、聴覚、平衡感覚、臭覚、味覚、呼吸、摂食・嚥下、発声・構音、容顔など生命維持と社会生活に必須の機能が集中する部位について、感覚・運動機能温存技術及び再建技術の向上を目指す。2では、AYA世代のがんにおける生殖機能の温存を目的に、優れた妊孕性温存がん集学的治療の現状を把握し、さらに開発・普及することにより我が国のがん治療の水準を高め、キャンサーサバイバーのQOL向上に貢献することを目指す。
	50,000千円 ※2年目以降は10,000千円程度	最長3年	0~2課題程度	
<b>2 生殖機能温存を意識したAYA世代のがん治療法の開発</b>	20,000千円程度	最長3年	0~3課題程度	<b>【求められる成果】</b> ・研究課題1-1 初年度は、眼とその周辺のがん及び頭頸部がんについて、感覚・運動機能温存のための技術開発及び物質工学など他領域との協調による再建技術の向上を目指す臨床研究のプロトコル作成が求められる。優秀なプロトコルを作成した研究開発課題については2年目以降も継続とし、当該プロトコルに沿った臨床研究の実施が求められる。 ・研究課題1-2 初年度は、眼とその周辺のがん及び頭頸部がんについて、ウェブベースでのコホート研究が可能な全国レベルの症例登録システムを構築が求められる。2年目以降は、当該症例登録システムのキュレーションが求められる。 ・研究課題2 AYA世代のがんにおける生殖機能の温存を目的とした、集学的治療に係る臨床研究の実施が求められる。

分野3 医療機器開発				
情報通信技術(ICT)等を用いた医療支援を行うためのソフトウェアの開発	50,000 千円 ※2 年目以降は10,000 千円程度	最長3年	0~2課題程度	<p><b>【目標】</b> 医薬品や医療機器は、適切な条件や方法で用いることにより高い治療効果が得られる。しかしながら、現状の医療現場においては、それら条件や方法の判断は個々の医療従事者が有する知識や経験に負うところが多く、最適な使用方法となっていないことがある。</p> <p>一方で、薬事承認等されたソフトウェアの利用が 2016 年に初めて保険収載されるなど、情報通信技術(ICT)等を活用した新たな医療技術の創出がすすんでいる。</p> <p>本公募研究課題では、患者の状態や医療現場における多様な現象や状況を定量化・情報化することなどにより、医薬品や医療機器を使用するうえで最適な条件や方法の選定を支援するソフトウェアを開発する。これにより、現状の医療ニーズを満たし、従来よりもさらに効率性や安全性が高く、均質な医療の提供を実現する。</p> <p><b>【求められる成果】</b> 医療機器プログラムの薬機法承認を目指した臨床研究または医師主導治験を実施し、本研究開発期間の終了時点までに下記のいずれかを達成することを求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究:臨床研究の完了(総括報告書)、治験プロトコルの確立、または医療機器製造販売業者への導出</li> <li>・医師主導治験:医師主導治験の完了(総括報告書)、または医療機器製造販売業者への導出</li> </ul>